

申 請 書

1. 都市名 City of Sasayama
2. 国名 Japan
3. 連絡先 主な窓口：
4. 創造的分野 crafts and folk arts

5. 市の概要

市の主な地理、人口統計、文化と経済の特徴、管理方式、主な文化施設とインフラ、国際関係など。(1700 文字／日本語 680 字以内)

篠山市の面積は約 378km²、人口は約 45,000 人。篠山城を中心にした城下町と、その周辺には農村集落や窯業集落などが広がり、多様な文化を育んできた。京阪神の大都市圏から電車や車で約 1 時間で移動できる距離にありながら、このような文化的景観を保全してきたため、国の重要伝統的建造物群保存地区（全国で約 100 箇所）に選定されたエリアが 2 か所ある。優れた文化と美しい街なみから小京都とも呼ばれ国内外から多くの観光客が訪れる。

近年、篠山市の自然環境や文化的景観、古来から継承されているフォークアーツなどから成る創造環境に魅せられ、創造産業に関する起業家等の移住者が増加し、世帯数は 2000 年以降増えている。

さらに 2015 年、文化庁が国内で特に優れた文化や魅力のある地域を全国で 18 箇所認定した制度「日本遺産 (Japan Heritage)」の第一号に、「丹波篠山 デカンショ節が息づくまち」が認定された。篠山市の歴史や文化、伝統をデカンショ節とともに継承してきたことが大変高く評価されたものである。

国際交流では、姉妹都市提携を結んでいるアメリカのワラワラ市との交流とともに UCCN 加盟都市の利川市や杭州市、アンギャンレバン市を訪問して交流を深めている。更に東アジアの途上国から農業技術の研修や文化、街づくりの視察を受け入れている。

6. 市の発展を妨げる課題、行動を起こさせる要因

都市はそれぞれに固有で、それぞれのコンテクストや優先課題によった目的を追求している。このセクションでは、文化と創造性（特に申請分野において）が、発展しようとする市の直面する課題に対して、どのような問題解決を示すことができるかを述べる。(1000 文字／日本語 400 字以内)

日本では 1960 年代からの高度経済成長期において、各地で都市化や市街化が進展し、歴史的な町並みや文化的景観、さらには生活様式等の文化までも破壊された。しかし篠山市では、それらを積極的に保存し、「日本の原風景」として魅力を国内外に発信していこうと、市民と行政が協働して多彩な事業を展開してきた。

2011 年に策定した「歴史文化基本構想」では、市民が継承したいと考えているクラフツ&フォークアーツなどの文化財は 4,711 件にも上り、これらを継承していくことにしたのである。

2011 年から 2020 年までの 10 カ年計画として策定した総合計画でも、受け継いできた日本の原風景を守り続けるとともに、新たな創造産業を発展させて経済社会発展のモデルになるとの戦略を定めている。

7. 申請の動機とネットワーク加盟への市の主な目的

創造都市ネットワークへ申請する動機と、予想される市の持続可能な発展のための長期的な影響。
(1200 文字／日本語 480 字以内)

豊かな自然環境と文化遺産を保ってきた篠山市では、農作物の恵みだけでなく、永く継承されてきた祭礼行事や文化、丹波焼などの伝統産業を育んできた。私たちがめざすのは、自然や文化の中に「都市機能」を調和する形で共存させながら、食と器を中心に都市の活力を創造することである。

この実現のため、創造都市推進計画を充実させる。計画には、若い人材の移住・育成による陶芸文化の継承・発展、生産者・陶芸作家・料理人・研究者・観光関係者等 の連携体制の構築、国際的な創作展示イベントの開催等を盛り込む。

特に、小規模都市である特徴を生かした創造都市モデルを篠山市が海外に提示し、UCCN 加盟都市や途上国の小都市と共有し、互いに発展する国際的連携を進める。

これらを通じ、篠山市は、地域固有の文化創造力を強化して、食文化の向上と伝統的工芸産業の振興を同時に達成するとともに、地域自然と伝統文化の保全に配慮した地域固有文化創造都市を目指す。

8. 申請に向けての準備

申請書作成までの準備の過程とマネジメント・チームのメンバーについて記述する。市が提出する申請書の企画と準備には、官・民・学術界・市民社会にまたがる、申請分野に関わる幅広い人々の参加が必須である。(1000 文字／日本語 400 字以内)

2009 年から UCCN への加盟を検討してきた。2011 年にクラフツ&フォークアーツ関係者・産業界・学識者・行政・市民団体等の代表によって構成される「篠山市創造都市ネットワーク推進準備委員会」を組織し、ネットワーク加盟の意義と課題について熟議した後、加盟へ向けて積極的に取り組んでいくことを決定した。また、国内外の既加盟都市から学ぶとともに、前ユネスコ事務局長の松浦晃一郎氏の講演会や市内各地でのワークショップ開催によって市民への認知と理解を深めてきた。

2012 年には、準備委員会とほぼ同じメンバー構成による「篠山市創造都市推進委員会」を組織し、加盟に向けての準備を重ねてきた。2013 年 9 月には「篠山市創造都市推進計画」を策定し、創造産業の振興等に取り組んでいる。

9. ネットワークに提供される市の資産

ネットワークの目的達成を前進させるため、今後さらに地域的・国際的に脚光を浴びさせられるような、市の主要な資産（特に申請分野において）について記述する。市の文化創造的資産がきちんと審査できるよう、箇条書きのリストは避け、簡潔な回答の中に情報を満載する文章に。
(各分野 1000 文字以内／日本語 400 文字)

9.1 申請分野が市においてどのような歴史的な役割と発端を示すのか

篠山市の代表的なクラフトは丹波焼で、800 年以上の伝統を持ち、瀬戸・常滑・信楽・備前・越前とともに、日本の六古窯（ろくこよう）の代表格である。篠山の豊かな自然から生み出される黒大豆や栗など日本一のブランドである食材を支える食器として、丹波焼は引き継がれてきた。篠山市において豊かな自然や文化的景観、京文化の影響を受けた祭礼や農業を民俗行事が受け継がれている。

このように、クラフツ&フォークアーツが長年にわたって受け継がれてきたのは、市民一人ひとりがその価値を認め、伝承のための努力を怠らなかったからである。このように日常生活の中で、歴史文化や芸術を大切にしてきたことは、丹波焼もデカンショ節の中に唄われており、今回、篠山の日本遺産の認定にあたっては、丹波焼も貢献している。

9.2 文化産業（加えて申請分野）の経済的重要性とダイナミズムについて。市の経済発展と雇用にどのように貢献しているか、文化的企業の数など、データで示す。

篠山市の代表的な文化産業は、国際的に評価の高い丹波焼などのクラフツと、だんじりやデカンショ祭りなど独自のフェスティバルからなるフォークアーツ、そして、豊かな自然環境が生み出した黒豆などのブランド農作物を核にしたクリエイティブ・ツーリズムから構成される。近年、都市部からアーティストやシェフが数多く移住し、空き家となった古民家を 50 近く、アトリエやレストランにリノベーションして「創造の場」が広がっている。このことが、さらにツーリストの増加につながり、食と器を中心とした豊かで多様な篠山のクラフツ&フォークアーツの価値は、篠山の魅力を高めている。

篠山市の産業構造について、産業別就業者数を見ると、2010 年度で第 1 次産業が 2,590 人（12.1%）、第 2 次産業が 5,160 人（26.2%）、第 3 次産業が 12,122 人（56.5%）となっており、丹波焼やブランド作物、ツーリズムなどの創造産業の就労者数が増加している状況にある。

9.3 過去 5 年間で市が申請分野の専門家（クリエイター、プロデューサー、市場運営者、プロモーター等）に向けて開催した博覧会、会議、大会ほかの国内・国際的なイベント。

丹波焼陶器まつり

1978 年から毎年 10 月、兵庫陶芸美術館や市内各地を会場に開催するフェア。丹波焼の販売や企画展示などを行う。来場者は全国各地から約 14 万人。

Tanba Style

2013 年と 2014 年、西日本最大の商業地である大阪市内の各所で開催したフェア。現代のライフスタイルに合う新たなブランドを発表し、メディアにも多数取り上げられた。来場者は国内外から延べ 2000 人。

ササヤマルシェ

2010 年から毎年 10 月に開催するイベント。市民有志が企画運営を行い、丹波焼や農産物、雑貨を販売するとともに、ワークショップも開催。陶器を生活の中で楽しむヒントが得られる。来場者は全国各地から約 7 万人。

9.4 過去 5 年間で市が申請分野の地域・国内・国際的観客に向けて開催したフェスティバル、大会、他の大規模イベント。

デカンショ祭

毎年 8 月に篠山城跡で開催されるフェスティバル。参加者全員で踊るための民謡「デカンショ節」は江戸時代から継承されている。歌詞には市の多くの歴史文化関連資産が唄われており、有

形・無形の文化が多様に残っているのは日本の中で篠山だけであることの証左である。近年では海外からの観光客も一緒に踊り交流を深める。

丹波篠山味まつり

1988年から毎年10月に開催。世界的評価の高い黒大豆をはじめ、松茸や栗などの農産物の収穫を祝うフェスティバル。自然の恵みに感謝する大切なフォークアートの一つであり、国内外から約18万人が訪れる。

9.5 公式・非公式を問わず教育において、青少年向けに創造性と芸術教育を振興する仕組み・コース・プログラムが申請分野で取り組まれているか。

小学校や幼稚園教育プログラムの一環として、児童生徒が各窯元の指導を受けて作品を作る陶芸体験を行い、また市外からも受け入れている。
更に、陶芸美術館で以下の学習事業を行っている。

陶芸大学

陶芸の基礎を学ぶとともに、制作過程を体験し、丹波焼の造詣を深めることを目的に2005年から実施。60の窯元が指導を行い、これまでに延べ550人が受講。

陶芸ワークショップ

専門的な陶芸用具による作陶や登り窯を活用して焼成体験をし、陶芸の理解を深めることを目的に2005年から実施。60の窯元が指導を行い、これまでに延べ830人が受講。

9.6 関連分野において、生涯教育、第三期の教育、職業学校、音楽や演劇学校、施設とほかの専門の高等教育施設

市内外で窯元が陶芸教室を開催し文化面での生涯教育を推進するとともに、現存する丹波焼最古の登窯（兵庫県指定重要民俗文化財）の修復が完了しこれを活用して、芸術専攻の学生とのプロジェクトを実施する。

また、陶芸技術の研修のために各窯元に弟子入りし5年程度の教育を受け独立していく昔ながらの徒弟制度も国内で続いていることは珍しく、丹波焼の陶芸技術を着実に後世に伝承している。

著名作家招聘事業（アーティスト・イン・タンバ）

国内外で活躍している著名な陶芸作家を招聘して、公開制作や講義等を実施してもらい、市内の陶芸家に刺激を与える。

9.7 関連分野においての研究センターとプログラム

兵庫陶芸美術館

2005年に開設。陶芸文化の振興と陶磁器を通じた人々の交流を深めることを目的としている。立地の自然と伝統文化を活かし、エコミュージアムの環境の創出も目指している。陶磁器の国際的な展示、資料の収集保存、調査研究、人材の育成、学校等との連携も行っている。収蔵作品は約1,500点。

技術専門講座

通常、習得機会の少ない特殊な陶芸技法等に関する研修を行う。

スタジオ・アーティスト

美術館はアトリエを提供し、創作活動を支援するとともに、窯元や地域住民との交流促進を図り、丹波焼の造詣を深める。

9.8 申請分野のプロ（産業従事者）のために、生産、制作、活動・商品・サービスの流通を担う空間やセンターがあるのか。（例えば文化企業のインキュベーション、文化的商品やサービスの輸出をサポートする商工会議所など）

丹波焼は、大きな工場を作らず、古くから個人の窯元が各窯元に登り窯をもっており、現在60の窯元が、それぞれ1〜3人の陶工により独自で生産活動を行っている。これは、日本でも篠山だけに続くもので非常に珍しいものである。このような個々の窯元のネットワークをまとめ、クリエイティブな活動を支援しているのが、兵庫陶芸美術館、立杭陶の郷の二つの施設と、篠山商工会議所と丹波陶磁器協同組合の二つの組織である。

また、篠山商工会議所は、主要メンバーが丹波焼の作家であり、市内の様々なイベントで丹波焼の展示や販売を行う支援を行っている。丹波陶磁器組合は、伝統工芸士資格の認定支援や窯元のネットワーク、連携支援をそれぞれ行っている。

9.9 一般や特定の観客（若者・弱者・等）に向け、申請分野の実演・プロモーション・流通に特化した主要施設や文化空間はあるのか。

丹波伝統工芸公園・立杭陶の郷（たちくいすえのさと）

1985年に開設した丹波焼の産業振興と文化レクリエーション、及び観光のための施設。丹波焼の歴史を学ぶとともに、陶芸体験の施設や、丹波焼の窯元の作品が購入できる「窯元横丁」がある。更に、ユニバーサルデザインの丹波焼の展示、販売を行うとともに、こどもや若者向けの陶芸体験教室も実施し、全国から毎年7万人が訪れる。

また、各窯元でも作品の販売や様々な陶芸体験ができるとともに、陶の郷と隣接する兵庫陶芸美術館では、丹波焼の洋食器と篠山の食材を活かしたイタリア料理などを観客に提供している。今後は、世界の都市と交流を通じて、海外の様々な食文化にあった食器の生産をめざしていく。

9.10 過去5年間に、文化芸術（特に申請分野）への参加を、とりわけ逆境にある社会的弱者層に広め促すため、市が実施した最大3つのプログラム・プロジェクトを記すこと。

丹波青い鳥学級&丹波くすの木学級

視力障害者、聴覚・言語障害者を対象に、幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに、交流を通じて相互理解を深める生涯学習の場を1974年から開設しており、丹波焼を障がい者が自由に作陶する講座を実施している。

丹波焼UD食器委員会

年齢や障害の有無を問わず、誰もが地域社会の一員として支え合いながら暮らし、一人ひとりが能力を発揮できるユニバーサル社会の実現をめざしている。窯元が中心メンバーになり、誰でも利用可能な丹波焼の制作を行っており、過去に「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」を受賞。

9.11 過去 5 年間に、申請分野において、市・民間・クリエイター・市民社会・学術界の関係を創出・強化した最大 3 つのプログラム・プロジェクトを記すこと。

Tanba style プロジェクト

2013 年から丹波焼の若手陶芸家が中心となり、新しいブランド開発に取り組んでいる。篠山市と商工会議所がサポートして大阪で毎年フェアを開催している。

『やきものの里巡りと裏路地のクラフト』

文化的景観や匠の資産を行う事業。陶磁器協同組合と連携して実施している。

工芸セミナー in 篠山ギャラリーKITA'S

世界的に活躍するプロダクト・デザイナーの喜多俊之が、古民家を改修して 2010 年に開設した工芸ギャラリー。2 カ月に 1 回、喜多氏が主催する工芸セミナーが開かれ、国内外のクリエイターや文化人が集う交流の場となっている。

9.12 申請分野において、市内で活発に活動している主要なプロフェッショナル団体や非政府組織とそれぞれの役割を示すこと。

丹波立杭陶磁器協同組合

1937 年に設立された事業協同組合で、60 の窯元で構成される。800 年以上の伝統を誇る技法を継承する伝統的工芸品を主に生産。研修や後継者育成も行い、伝統技術の伝承と改善のため意欲的な活動を展開し、産地振興に寄与している。

丹波立杭焼伝統工芸士会

1978 年に国から伝統的工芸品の指定を受けたことに伴い、国の認定を受けた伝統工芸士が結成した組織。伝統工芸士は産地に残された伝統技術を継承し、後継者の確保、育成等、産地振興事業の推進力となっている。

9.13 過去 5 年間に、創造的な活動（特に申請分野において）を支持し、クリエイターのステータスを改善するために市が実施した政策や取り組みを示すこと。

篠山市展

芸術文化の向上を目的に 2005 年から毎年開催。市内外の作家から作品を公募し、工芸・彫刻・日本画・書などの部門別に審査を行う。毎年、計約 200 点の応募があり、入選者には展覧会で作品を展示するとともに、創作活動支援のための賞金も授与している。

丹波立杭焼伝統工芸士の顕彰と支援

丹波立杭焼の技術を継承する伝統工芸士の、後継者としての技術を高め、国の認定を受けられるように支援している。

9.14 過去 5 年間に、申請分野における地元文化産業の創出と育成のために、市が実施した政策や取り組みを示すこと。

歴史文化基本構想

市域に広がる多様な文化財を 3 年間かけて調査し、市民とともに保存・活用のあり方を検討して 2011 年に策定した。とくに市民が継承したいと考えている文化財は 4711 件にのぼり、丹波

焼をはじめ、全国的に有名な春日神社の能舞台や無形のフォークアーツが多数継承されていることが示された。

創造都市推進計画

篠山における「創造的なまちづくり」推進のために策定し、その理念を市民と共有し、世界に発信するとともに、地域コミュニティの文化経済活動などのアクションプランで、2013 年から 2017 年までの 5 年間計画である。暮らしに結びついた創造産業の育成をめざし、先人が残した技術や資産に新しい知恵を重ねて生業として承継することを創造都市のビジョンとしている。

9.15 過去 5 年間に、申請分野において、さまざまな国の都市と共に企画展開した国際協力事業を示すこと。

著名作家招聘事業（アーティスト・イン・タンバ）

国内外で活躍している著名な陶芸作家を招聘し、公開制作やワークショップ、レクチャーを行い、市内の陶芸家に刺激を与え、篠山市における陶芸文化の振興を図る。

陶磁器の国際展開催事業

兵庫陶芸美術館で、2015 年春に中国・南宋時代の青磁の展覧会を開催。また、同館で 2011 年秋に、ヨーロッパ磁器の発祥となったドイツのマイセン磁器製作所の、誕生のドラマと 300 年にわたる歴史を、国立マイセン磁器美術館のコレクションから選りすぐった 160 点の作品を紹介する展覧会を開催した。

9.16 過去 5 年間に、申請分野と少なくとももうひとつの指定分野との横断的・交差的なプロジェクトがシナジー効果（相互作用）を生むよう、市が実施した支援体制・プロジェクト・プログラムを示すこと。

食と器の国際ビエンナーレ・プレイベント

2013 年 5 月、クラフトと食文化との融合を試みるイベントを市内各地で開催。篠山の歴史的建造物や文化的景観、祭礼などを包含し、篠山の環境すべてを「器」と捉えて名付けた。いずれも先人たちが篠山で技術を磨き、魂を込めて造り上げてきたものであり、そのような職人の技術と魂を顕彰する意味も込めて開催した。

丹波篠山・まちなみアートフェスティバル

2009 年に市民が実行委員会を組織して以来、毎年 9 月に継続開催している。クラフツ&フォークアーツとデザイン及び音楽の相乗効果によって、篠山の古い町並みの文化的景観を基にクリエイティブな作家や芸術家が作品を展示するイベントであり、多くの観光客が訪れ、まちの活性化に貢献している。

9.17 過去 5 年間に、7 つの創造産業のうちの少なくとも 2 つにまたがる領域横断的・交差的な分野で、実施された国際協力事業やパートナーシップを示すこと。

丹波の森国際音楽祭 シューベルティアードたんば

1995 年から毎年開催している音楽祭で、シューベルトの音楽を核とした活動を通じて「人と自然と文化の調和した地域づくり」を推進する観点から、オーストラリアなど世界からゲストを招聘している。

20 回となる 2014 年は兵庫陶芸美術館でも開催され、人々はクラフトと音楽の融合を楽しんだ。

日本六古窯サミット in 篠山

2015 年 11 月に丹波焼技法の伝承及び後継者育成、作家同士の交流を目的に開催。そこに利川市（韓国）の陶芸家や UCCN のデザイン都市からデザイナーを招聘し、事例発表や作家同士の交流により、クラフトとデザインの相乗効果を図る。

9.18 申請分野以外の創造産業に関連する、主要な施設やインフラと、過去 5 年間に市が開催した見本市・会議・学会のようなイベントを示すこと。

たんば田園交響ホール

1988 年開設。収容人員は 800 人、オーケストラピットも設置されており、音楽鑑賞だけでなく、市民が中心となって文化芸術を創造する場として市民ミュージカルも上演している。

創造農村ワークショップ

文化庁の文化芸術創造都市推進事業の一環で、2012 年に篠山市で開催。観光など創造産業振興についての議論を行い、全国から約 150 名参加した。

10 ネットワークの目的達成のための貢献

このセクションでは、ユネスコ創造都市に認定されたとして、市が中期的（4 年間）に実施を約束する主要事業を解説した行動計画を示す。持続可能な都市発展のために創造性をエンジンとすべき、という創造都市ネットワークの目的達成を目指す。

ここで提案される事業は、「創造都市ネットワークのミッション・ステートメント」に記された目的や行動領域と一致していなくてはならない。行動計画と事業は、現実的・一貫している・実現可能でなくてはならない。長い理念的な項目のリストを並べるよりは、簡潔に主要な事業を解説する方が望ましい。

10.1 ネットワークの目的を実現させるため、地元での事業・プログラム・プロジェクトを最大 3 つ

3 つのうち、2 つは申請分野に関わり、1 つは別の創造産業とリンクする横断的な性質を持つべき。事業の説明には、実施目的・実施に関わる利害関係者・受益者・想定される結果を記すこと。官・民・市民社会・専門家組織・文化機関が参加し、市が支援するような事業が推奨される。

(3500 文字以内／日本語 1400 字)

今後 4 年間における重点事業やプロジェクトを示した創造都市行動計画を定める。本計画に従い、①食文化や伝統工芸等に関わる人材・関係機関の連携強化、②若い人材の育成や移住促進政策、③「食と器」の創造成果の普及・発展と産業育成を図るため、プロジェクトを総合的に推進する。具体的なプロジェクトは以下の通り。

丹波焼振興プロジェクト

日本六古窯の一つである丹波焼の里にある約 60 の窯元と、丹波伝統工芸公園・陶の郷、兵庫陶芸美術館と強く連携して丹波焼を振興していく。特に、次世代を担う丹波焼若手陶芸家が中心に新しい丹波焼食器を開発しており、これからは丹波焼の器に料理人やデザイナーとコラボレーションした丹波の食材の組み合わせをコンセプトにしたイベントを開催、人材育成をすすめる。

サポート体制：丹波立杭陶磁器協同組合、篠山市飲食業組合、まちづくり協議会、NPO

匠の技継承・継承プロジェクト

工芸、建築、農業、食文化など、暮らしに結びついた創造産業を振興するために、プラットフォームとなる事業協同組合を立ち上げる。

それを主体として、「職人学校」を設立する。国内外からの多様な職種の職人を受け入れ、技術の伝承や交換を行うことで人材を育成し、加盟都市や途上国の小都市の創造産業が進展—に貢献する。

サポート体制：陶磁器協同組合、篠山技能高等学院、篠山市建築組合、篠山市食文化センター、篠山市農業協同組合、神戸大学など

食と器の出逢いプロジェクト

丹波焼をはじめとする市内産の食器で、豊かな篠山の食材を活用した料理で観光客をもてなし、食と器の力で篠山の魅力を向上させるために行う。市内飲食店が飲食を提供する際に用いる食器類の購入に対して、市が補助金を出す。

そのことによって、丹波焼の良さが見直され、産業振興にも寄与するであろう。

サポート体制：丹波立杭陶磁器協同組合、篠山市飲食業組合

10.2 ネットワークの目的を実現させるため、（ネットワークの他都市の参加を迎えた）国際的な事業・プログラム・プロジェクトを最大3つ

事業の説明には、実施目的・実施に関わる利害関係者・受益者・想定される結果を記すこと。ネットワーク加盟都市が未だ少ない国や地域に関わる事業や、発展途上国の都市との共同事業が奨励される。複数の創造産業をリンクする横断的な事業でもよい（3500文字以内／日本語1400字）

篠山市は、小規模都市であるが、丹波焼やデカンショ節などの地域固有の文化的特徴を有する。この小規模都市ならではの特徴を生かした「創造都市モデル」を他国に提示し、UCCN加盟都市や途上国の小都市と共有し、学び合う国際的連携事業を今後4年間にわたり推進する。

食と器の国際ビエンナーレプログラム

篠山の食文化とクラフトの融合による新スタイルを提案し、その相乗効果により、外客誘致や海外への情報発信を行うため2015年11月に開催する。

今後も開催し、「食と器の創造都市モデル」を途上国の小都市に提示し、共有しながらビエンナーレに招聘して、互いに連携を深めていく。同時期開催の「日本六古窯サミット」には、UCCN加盟都市である利川から陶工などを招聘して意見交換を行う。

国際アートフェスティバルプログラム

2009年度から始まった「丹波篠山・まちなみアートフェスティバル」は町屋と芸術・日常とアート融合をテーマにしたイベントで「町屋が美術館に変わる」というコピーのとおり、日常の町並みを非日常の美術空間に変えようと、地元と作家が協働でビエンナーレとして開催している。今後も継続し、UCCN加盟都市であるアンギャンレバンや杭州、サンタフェなど、海外からの作家も招へいし、日本文化に海外文化も取り入れた国際アートの祭典に発展させる。そのことによって、観光客の増加だけでなく、加盟都市相互の文化芸術の人材育成に貢献する。

サポート体制：篠山市商工会、丹波篠山観光協会、篠山市文化協会、篠山まちなみ保存会、篠山商店街連合会、まちづくり協議会、自治会など

丹波インターナショナルレジデンシープログラム

途上国の小都市への貢献として、若手の職人を窯元などで広く受け入れ、作陶技術の伝承手法やクリエイティブな作風や販売戦略などのノウハウを教授し、自国での職人活動に活かせるように支援する。特に、古民家を改装した滞在施設で職人を受け入れ、陶芸活動だけでなく、木造建築物の活用や里山整備、バイオマス、自然農業などの確立に向けた取組など、国際アーチストイ

ンレジデンス事業として、カリフォルニア州立大学と陶磁器組合の連携により、途上国への技術支援を中心としたプログラムを開発する取り組みを進めている。

10.3 行動計画を実施するための年間予算

行動計画の年間予算に加え、その中で地域・国際的な事業にあてがわれるそれぞれの割合（％）の提示も望まれる。資金のみならず、人件費や施設使用料等、市が投入する全ての財源を示すこと。国庫や国際的な助成金から想定される歳入も記すこと。審査は予算の規模ではなく、行動計画と予算の現実性・一貫性・実現可能性・長期的な維持可能性を元に判断される。（500 文字以内／日本語 200 字）

予算規模で評価されないが、アクションプランに関連した、実効性、首尾一貫性、達成性と持続可能な長期的な予算プランが必要である。

市全体の予算額は 2015 年度で 170 億円、そのうち創造都市推進計画に係る予算は 9.1 億円（全体の 5.35%、うち人件費約 2 億円）である。

創造都市推進計画に係る予算は 2016 年度で 9.5 億円、2017 年度で 9.6 億円、2018 年度で 9.7 億円である。

10.4 認定された場合、どのような組織と運営体制を作って行動計画を実施するか

ネットワークの目的達成のため、行動計画を企画運営するにはどのような人材とユニットを組み合わせるのか、市はどのように貢献するのかを記す。ユニットの代表が市の窓口となる。実務をどのように進めるかを具体的に記述する。（1000 字以内／日本語 400 字）

「篠山市創造都市推進計画」を「篠山市創造都市推進委員会」が中心となって推進していく。推進計画は第 2 次篠山市総合計画を上位計画とし、下位の個別計画や各部署が作成するビジョンなどを横断しながら、「創造的なまちづくり」の視点で計画したものである。本計画の役割は、①地域コミュニティの文化・経済活動についての行動計画、②篠山市の「創造的なまちづくり」の理念を市民が共有する役割、世界に発信する役割、③篠山市において、他の施策との連携を図る指針としての役割を盛り込んでいる。

2015 年度の篠山市（行政）の担当人数は 4 名で、資金額は 225,684 千円である。推進委員会はクラフツ&フォークアーツ関係者・産業界・学識者・行政・市民団体等の代表によって構成される。

10.5 広報と啓発の計画

ネットワークの目的と行動計画のインパクトを広く広報・宣伝するための広報・啓発計画を記す。（1000 文字以内／日本語 400 字）

「食と器」を最大のテーマとして広く広報宣伝していく。具体的には、篠山市の黒大豆など豊かな農産物である「食」と若手の陶工による洋食器や鮮やかな色彩食器など斬新なデザインと伝統技術が融合した丹波焼の「器」。この食と器を一体として、観て食して最高の幸せを感じてもらい、食と器の国際ビエンナーレなどを UCCN 活動の中心事業として展開し、丹波 Style など若手の活動を支援する。伝統を尊重しながら現代芸術を創造し、持続可能な創造産業を構築するとともに、国内外からの観光客を集め、クリエイティブな篠山を体感してもらう。更に、利川などのクラフト分野での連携だけでなく、食文化都市やデザイン都市とも連携し広く広報宣伝していく計画である。

11. 実働実施報告書の提出

12. ネットワーク総会への参加

13. 広報資料

認定が決まった際の広報資料。ユネスコのウェブサイトや創造都市ネットワークの広報物に必要な材料。

13.1 申請分野における文化資産と産業 (1400 字以内／日本語 560 字)

京文化の影響を受けた祭礼や民俗芸能などの多様なフォークアーツを伝承しており、今なお市民の暮らしに息づいている。

祭礼や民俗行事では、波々伯部（ほほかべ）神社の氏子から出されるだんじりは、ユネスコ無形文化遺産の指定を受けた京都祇園祭の山鉦を模した雅なものである。

また、能は、1861 年に春日神社に建立された能舞台で、元日午前零時すぎに行われる「翁」や春の「春日能」の 2 回の能会や狂言も奉納され、雅やかな芸術文化である。

これらの豊かで多様なクラフツ&フォークアーツの価値は、「日本遺産」認定第 1 号となったことでも明らかである。

私たちがめざすのは、自然環境の中に「都市機能」（商業・居住・産業・交通・レクリエーション）を調和する形で共存させながら、産業振興とともに都市の活力を創造することである。

13.2 ネットワークの目的実現に向けて、市は行動計画を通してどのような貢献をするか (700 字以内、日本語 280 字簡条書き)

・国連で議論された「ポスト・ミレニアム開発目標（MDGs）」で示された「良い生活 well-being」を重視し、単なる都市化、経済発展を目指すのではなく、篠山の誇る文化的多様性と自然環境と生物多様性の保全を大切に、持続可能なまちづくりを発展途上国および小規模都市のモデルとなるよう連携することで貢献

・篠山市が長年にわたって継承してきた文化的景観やフォークアーツの価値を海外に向けて発信し、他都市との文化交流を通じてクラフトをはじめとする創造産業の発展に貢献

13.3 関連する 4 つまでの URL

篠山市創造都市ネットワーク

(<https://www.city.tambasasayama.lg.jp/soshikikarasagasu/sozoutoshika/tambasasayamasozokakari/burandosenyakukakari/creativecity/5609.html>)

篠山市観光情報 (<https://tourism.sasayama.jp/>)

丹波伝統工芸公園立杭陶の郷 (<https://en.tanbayaki.com/>)

兵庫陶芸美術館 (<https://www.mcart.jp/global/en/>)

